【授業科目】疫学 Epidemiology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
川井 薫	2年次後期	選択	2	30	講義			可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>疫学は、人間集団における健康状態や疾病に関連する要因の分布や頻度を明らかにし、それを規定する様々な因子を解析する。また、疾病に関する諸問題を予防し、健康に有効な対策を立てるための学問である。そして、地域における疾病予防対策に役立つ解決策や、予防医学と検査に関する知識と技術を身につけるために、疫学の方法、疫学の指標、因果関係と交絡、疫学研究手法、疾病の疫学、保健統計等について教授する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/適時実施するレポートや定期(中間)試験は、希望学生に対して模範解答で解説する。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から医療技術援助ができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①将来、医療現場で遭遇する問題の解決に、必要となる疫学調査の基本を説明できる。 ②疫学で用いられる主要な指標について説明できる。 ③記述疫学、分析疫学、介入研究の概要を説明できる。 ④スクリーニング検査の目的と評価の指標を説明できる。 ⑤感染症・食中毒の基礎知識と、それぞれの発生時における疫学調査について説明できる。 ⑥人口統計・保健統計資料について説明できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>授業の前にはシラバスに記載された授業計画の該当箇所を予習し(約120分)、授業後には120分程度の復習を行うこと。</p> <p>※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合:予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合:予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合:予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは、教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 疫学の方法と歴史と基本 第2回 疫学で用いられる指標 第3回 記述研究 第4回 生態学的研究、横断研究 第5回 症例対照研究 第6回 コホート研究 第7回 介入研究 第8回 前半講義のまとめ(課題又は試験を含む) 第9回 システマティックレビュー、バイアスと交絡因子 第10回 スクリーニング、情報収集方法とその処理 第11回 疾病で用いられる統計学的方法とその解釈 第12回 生命表・平均寿命、保健統計調査 第13回 疫学研究と倫理、臨床疫学 第14回 食中毒・栄養・運動・分子・社会の疫学 第15回 感染症・環境・小児保健の疫学</p>						全て川井	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 中間と学期末試験90%、授業への取り組み姿勢や課題提出等10%</p>							
教科書	日本疫学会監修『はじめて学ぶやさしい疫学』(改訂第4版) 南江堂			参考書等	なし			
学生へのメッセージ	<p>講義に用いた配付資料等を復習し、要点をノートにまとめること。受講にあたり予習・復習に時間をかけて積極的に取り組むこと。</p>							